

令和元年度 後期学校評価アンケート結果（12月実施）

今年度後期の学校評価アンケート結果のご報告をいたします。生徒・保護者・教職員それぞれのアンケート結果から見えてくる学校の課題について、学校運営協議会、校内委員会、PTA運営委員会等で協議をしました。昨年度同様、肯定的な回答を集計し、基準値の75ポイントを一つの目安として表示いたしました。以下に協議した内容をまとめましたので掲載させていただきます。

<確かな学力>

今年度も過去数年と同様、家庭学習が定着できていないことと、書物に親しむ姿勢がはぐくまれていないことが、大きな課題であることは依然変わらない。再来年度から始まる新しい学習指導要領に向けて、子どもが授業の中で「主体的に取り組む姿勢」や「対話的な活動」については、指導者側も改善されつつあり、そのことが子どもの成果として出ている。ただし「深く学ぶ姿勢」につながる「まとめと振り返り学習ができているか」という項目については、子どもも指導者側も数値が低く、今後の大きな課題である。その中で道德の授業で「自分の生き方について考えが深められているか」の項目の数値が上昇しており、教科化されたことと相まって、授業改善が進んだことを物語っている。

学校評価の項目には含まれていないが、国語科が、論理的文章の読解力を高めるために取り組んできた「文章を書く力をつける学習」が徐々に定着してきている。国語科では「話を聴く」「聴いたことを自分で解釈し、理解する」「理解したことを文として表現する」という活動を継続して行っている。子どもたちは、授業の中で指導者の板書を機械的に書き記すのではなく、指導者が話したことを聴き、聴いたことを理解し、そして語彙を使って文に表すという学びを実践している。すぐに結果の出ることではないが、子どもたちの学力の屋台骨となることは間違いない。

今後は、子どもが受け身の学びから決別し、主体的に学ぶ姿勢に代わることができるように、指導者が手をかけ過ぎず、時間がかかっても子どもの自主性を尊重し、見守っていくことで、子どもが主体的に学ぶ力が育んでいきたい。

<豊かな心と健やかな体について>

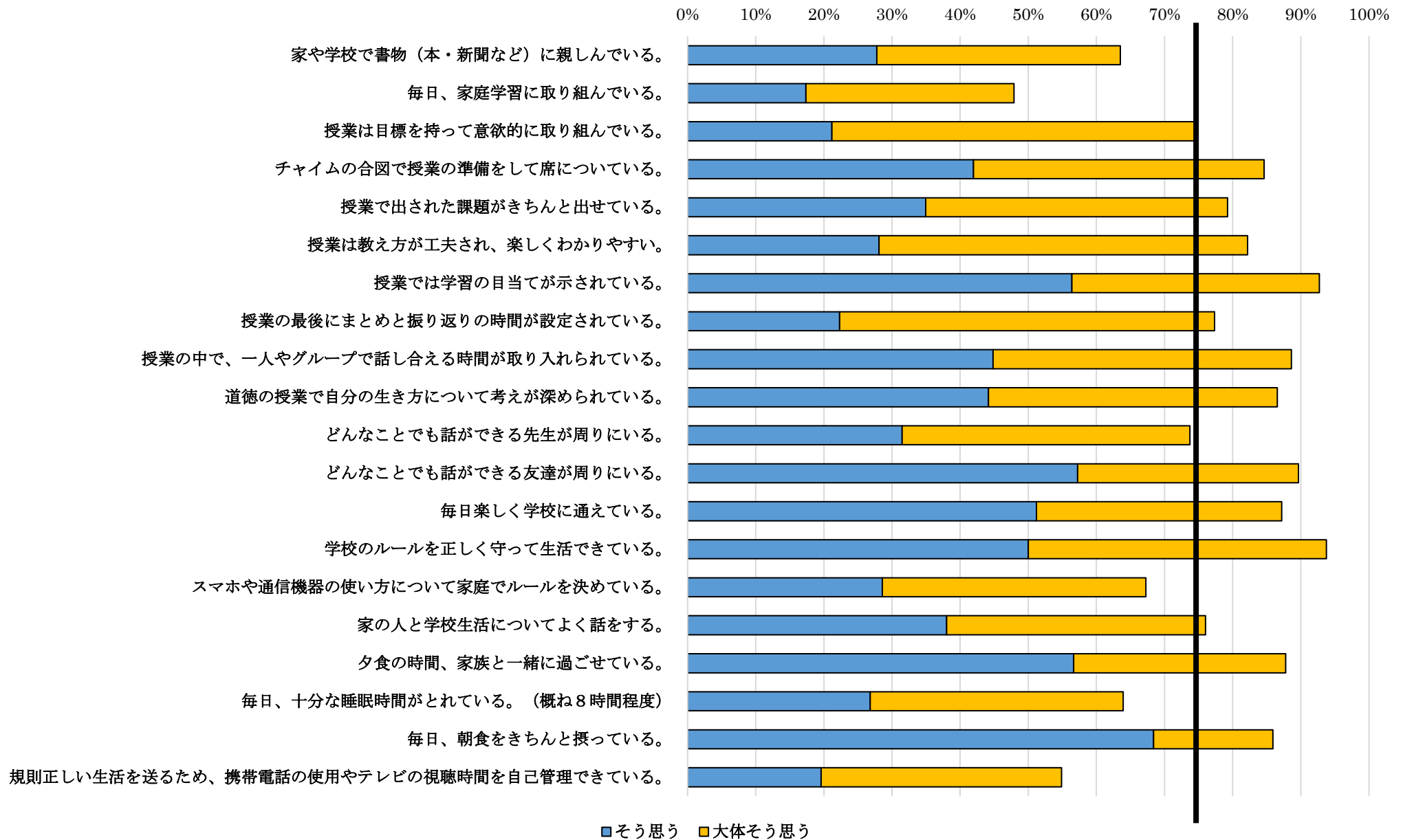
生徒会活動、学校行事、部活動を通じた教育活動については、子どもたちが成就感や楽しさを体感しており、そのことにより自己肯定感を育てている。また、その事により子どもが学校に楽しく通えていることにつながっている結果は、前期同様喜ばしいことである。

「携帯やスマホの利用時間やテレビの視聴時間などの自己管理ができているか」と「十分な睡眠時間がとれているか」については、依然として数値が低く、基本的生活習慣の乱れを生み出していることにつながっている。また、依然として、携帯やスマホの利用についてのルールが決められていない家庭が多いことも危惧される。これらは、学校と家庭が協力して取り組む必要性のある喫緊の課題である。

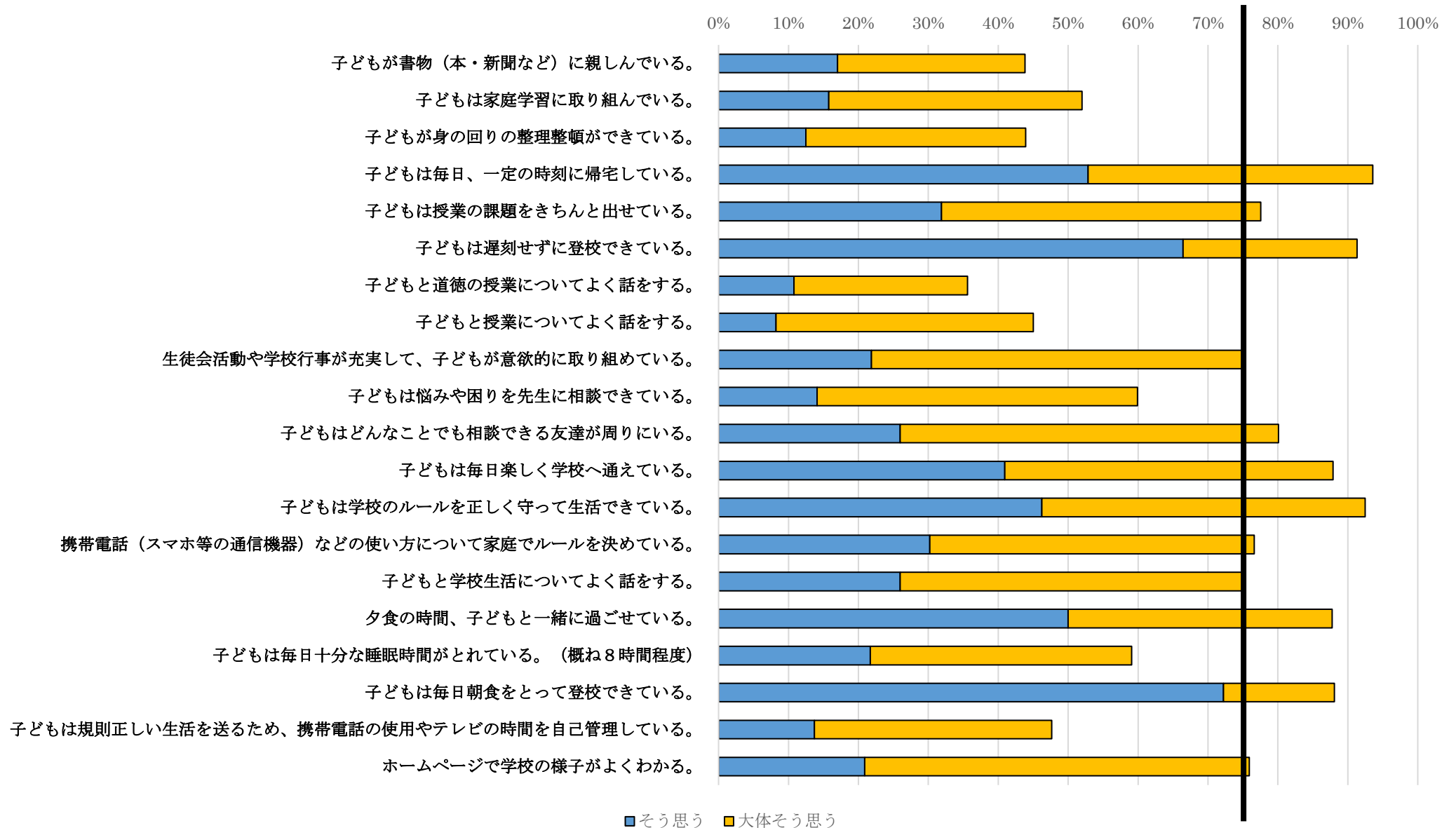
いじめの防止に向けて、「周りに相談できる友達がいるか」の項目については、高い数値を示しているが、子どもと教職員との共感的理解の深まりについては、前期同様さらなる取り組みが必要である。また、「学校の様子について、家庭で話をするか」の項目については。子どもも保護者も一定数値は高いが、授業のことについては話さない実態が明らかである。

最後に、数値の低い項目を列挙すると、「家庭学習（読書も含む）の定着」「身の回りの整理整頓」「授業に関する家庭での会話」「テレビや携帯・スマホの家庭ルール」「睡眠時間の確保（早寝早起）」となる。これらは家庭の教育力に帰するものであり、学校と家庭の協力が一層望まれることは言うまでもない。

2019年度 後期学校評価アンケート結果（生徒）



2019年度 後期学校評価アンケート結果（保護者）



2019年度 後期学校評価アンケート結果（教職員）

